

(別紙様式3)

令和2年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1
管理機関名 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 西上 三鶴

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年5月30日(契約締結日)～ 令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立生野高等学校
学校長名 松中 泰幸
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

未来型解決能力を持つ地域の担い手を育成するIKUNOモデルの開発

4 研究開発の概要

生野の歴史や文化を学ぶことで地域課題を理解し、地域の観光資源を活用した地域活性化と、AIやIoTを活用した高齢者に優しいまちづくり等、地域と協働した探究学習を通じて、生野が日本の近代化を牽引したという誇り「IKUNOプライド」を醸成し、地域の担い手の育成を図る「IKUNOモデル」の研究開発を行う。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用(□で囲むこと)

- 学校設定教科・科目を開設している
イ 教育課程の特例の活用している

6 管理機関の取組・支援実績

- (1) コンソーシアムについて
① コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名	機関名	機関の代表者名
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田利也	いくの地域自治協議会	会長 日下部誠
兵庫県立生野高等学校	校長 松中泰幸	奥銀谷地域自治協議会	会長 柴田一明
朝来市	市長 多次勝昭	NPO 法人あさご創生プロジェクト	代表 古屋敷和也
福知山公立大学	学長 井口和起	NPO 法人いくのライブミュージアム	代表 松本忍
神戸山手大学	学長 齋藤富雄	NPO 法人日本ハンザキ研究所	理事長 岡田純
(株)ZMP	代表取締役社長 谷口恒	朝来市商工会	会長 西垣隆
但陽信用金庫	理事長 桑田純一郎	生野町温泉開発株式会社	代表取締役社長 奥藤博司
全但バス株式会社	代表取締役社長 桐山徹郎	生野町観光協会	会長 桐山徹郎
株式会社シルバー生野	取締役社長 妹尾高明	社会福祉法人いくの喜楽苑	施設長 松本久司

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 5月 30日	コンソーシアムを組織
令和元年 6月 14日	第1回会合 ・申請の経緯，事業方針を説明し，今後の事業内容について協議し，フィールドワークへの協力を依頼 ・フィールドワーク先として，朝来市役所・シルバー生野・日本ハンザキ研究所を訪問することを決定 ・今後の会議の日程について協議し，成果発表会で地域活性化への提言を行うことを決定
令和元年 11月 16日	生野高等学校体育館で実施された第4回観光・グローバル教育発表会に参加し，生徒の研究成果のプレゼンテーションを見学・助言（IKUNO検定，地域活性化等）
令和元年 11月 16日	第2回会合 ・発表会の内容や実施方法について協議し，発表内容，発表時の生徒の様子について助言 ・5月契約日から11月16日までの本校の取組について協議し，更にコンソーシアム構成団体の協働を進める方針を決定
令和2年 2月 11日	第1回但馬地区高校生フォーラム出席 ・生野高校を含めた但馬地区高校生の探究活動についての取組発表の見学，各高校の代表生徒が自分の夢について語るパネルディスカッションに参加予定
令和2年 2月 11日	第3回会合 ・第1回但馬地区高校生フォーラムの内容について指導・助言 ・指定1年目の本校の取組の成果と課題について確認し，来年の方針を決定

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

福知山公立大学助教 江上直樹氏（都度依頼し謝礼支払い）

元朝来市地域おこし協力隊員 岡野未希氏（都度依頼し謝礼支払い）

但陽信用金庫教育訓練室室長 藤本佳朗氏（都度依頼し謝礼支払い）

NPO法人コミュニティリンク代表理事 中西雅幸氏（都度依頼し謝礼支払い）

②活動日程・活動内容

【江上直樹氏】

活動日程	活動内容
令和元年6月7日	生野高等学校のIKUNOモデル推進委員会に出席 ・令和元年度事業における活動計画について協議 ・各種施設の確認
令和元年6月18日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・各担当教員との打合せ
令和元年8月22日	国立教育政策研究所：渡辺恵子部長 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻：森川想講師 との会議に参加 ・ロジックモデルについての打合せ
令和元年9月13日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・1年生向け探究学習のあり方についての打合せ
令和元年9月20日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・担当教員への指導・助言，次週以降の打合せ 2年生「観光・グローバル探究Ⅰ」「地域探究Ⅰ」の授業に同行
令和元年9月27日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・1年生向け探究学習の基本設計に関する打合せ ・担当教員への指導・助言，次週以降の打合せ 2年生「観光・グローバル探究Ⅰ」「地域探究Ⅰ」の授業に同行
令和元年10月9日	1年生「観光・グローバル学習」「地域学習」の授業に同行 ・担当教員への指導・助言，次週以降の打合せ
令和元年11月8日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・観光・グローバル教育発表会の打合せ
令和元年11月16日	第2回コンソーシアムIKUNO協議会に参加 第2回運営指導委員会に参加
令和元年11月29日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・1年生探究学習の生徒アンケート結果の分析報告
令和元年12月11日	本校部活動「まちづくり部」生徒にドローンの操縦及び撮影方法を指導
令和元年12月13日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・次年度開始の学校設定科目のカリキュラムの基本方針について協議
令和2年1月8日	IKUNOモデル推進委員会に出席 ・第1回但馬地区高校生フォーラムについて協議
令和2年1月16日	授業担当者会に出席 ・担当教員への指導・助言
令和2年1月31日	授業担当者会に出席 ・担当教員への指導・助言
令和2年2月7日	授業担当者会に出席 ・担当教員への指導・助言
令和2年2月11日	第1回但馬地区高校生フォーラム，第3回コンソーシアムIKUNO協議会，第3回IKUNOモデル運営指導委員会に出席・参加，担当教員への指導・助言
令和2年3月9日	授業担当者会に出席 ・担当教員への指導・助言
令和2年3月26日	国立教育政策研究所：渡辺恵子部長，東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻：森川想講師との会議に参加

【岡野未希氏】

活動日程	活動内容
令和元年 11 月 6 日	これまでの授業の進捗状況について担当職員と協議
令和元年 11 月 7 日	「観光・グローバル学習」の年間計画の協議・修正①
令和元年 11 月 8 日	I KUNOモデル推進委員会に出席 ・観光・グローバル教育発表会の打合せ
令和元年 11 月 11 日	「観光・グローバル学習」の年間計画の協議・修正②
令和元年 11 月 12 日	「観光・グローバル学習」の年間計画の協議・修正③
令和元年 11 月 13 日	「地域学習」の年間計画の協議・修正①
令和元年 11 月 14 日	「地域学習」の年間計画の協議・修正②
令和元年 11 月 15 日	第 4 回観光・グローバル教育発表会に向けての指導・助言
令和元年 11 月 16 日	第 2 回コンソーシアム I KUNO協議会に参加 第 2 回運営指導委員会に参加
令和 2 年 1 月 27 日	運営計画素案作成
令和 2 年 1 月 28 日	計画素案作成（運営体制、授業の進め方）授業教材作成 授業サポート
令和 2 年 1 月 29 日	計画素案作成（運営体制、授業の進め方）授業教材作成
令和 2 年 1 月 30 日	計画素案作成（運営体制、授業の進め方）授業教材作成
令和 2 年 2 月 3 日	計画素案作成（運営体制、授業の進め方）授業教材作成 放課後指導支援
令和 2 年 2 月 4 日	計画素案作成（運営体制、授業の進め方）授業教材作成 放課後指導支援
令和 2 年 2 月 5 日	計画素案作成（運営体制、授業の進め方）授業教材作成 放課後指導支援
令和 2 年 2 月 6 日	計画素案作成（運営体制、授業の進め方）授業教材作成 放課後指導支援

【中西雅幸氏】

活動日程	活動内容
令和 2 年 1 月 15 日	テクノロジーについての職員研修
令和 2 年 2 月 20 日	「観光・グローバル学習」「地域学習」の授業に同行 Society5.0 超スマート社会の到来についての授業

【藤本佳朗氏】

活動日程	活動内容
令和 2 年 3 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光・グローバル学習」「地域学習」に同行 ・お金についての授業 ・カリキュラムについて担当教員と協議 ・お金の授業について職員研修講師

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

NPO法人あさご創生プロジェクト 篠原諒太氏（朝来市から派遣）

地域コーディネーター 多喜正城氏（朝来市から派遣）体調不良により途中退職

②実施日程・実施内容

【篠原諒太氏】

日程	内容
令和元年 4 月 6 日, 4 月 15 日,	I KUNOモデル推進委員会に出席

5月15日, 5月22日, 5月29日, 6月3日, 6月12日, 6月25日, 7月8日, 7月18日, 8月1日, 8 月22日, 11月8日, 11月20日, 11 月29日, 12月13日, 令和2年1月8日	・委員会の立ち上げ, 役割分担確認, 朝来市生野 支所との打合せ, 今後の授業計画, IKUNOモ デル運営指導委員会・コンソーシアムIKUNO 協議会の運営について, 3年間のスケジュールに ついて, 各教科で習得できる知識・技能の検討, 成果発表会の運営について等協議
令和元年6月14日	第1回コンソーシアムIKUNO協議会に出席
令和元年7月8日	第1回IKUNOモデル運営指導会に出席
令和元年7月27日	オオサンショウウオに関するフィールドワークに 同行
令和元年10月18日	本校生徒が出版した絵本を地元こども園で読み聞 かせをする場に同行
令和元年11月6日	1年生探究学習の中間発表に審査員として参加
令和元年11月16日	第2回コンソーシアムIKUNO協議会に出席 第2回IKUNOモデル運営指導会に出席
令和元年12月11日	部活動「まちづくり部」の活動に同行 ドローンの操縦及び撮影方法の講習
令和2年1月10日	2年生探究学習の中間発表に審査員として参加
令和2年1月16日	授業担当者会に出席
令和2年1月17日	2年生探究学習の中間発表に審査員として参加
令和2年1月21日	第1回但馬地区高校生フォーラムポスター作成補 助
令和2年1月25～27日	小樽商科大学視察
令和2年1月30日	1年生授業に帯同 会議資料作成
令和2年1月31日	授業担当者会に出席
令和2年2月4日	1年生授業に帯同 プレゼン指導
令和2年2月6日	1年生授業に帯同 まちづくり部の会議に参加
令和2年2月7日	授業担当者会に出席
令和2年2月11日	第1回但馬地区高校生フォーラム, 第3回コンソ ーシアムIKUNO協議会, 第3回IKUNOモ デル運営指導委員会に参加, 担当教員への指導・ 助言
令和2年2月20日	テクノロジーの授業に帯同 担当者会に参加
令和2年3月9日	授業担当者会に出席 ・担当教員への指導・助言
令和2年3月24日	授業担当者会に出席
令和2年3月25日	次年度担当者引継会議に参加
令和2年3月26日	国立教育政策研究所: 渡辺恵子部長, 東京大学大 学院工学系研究科社会基盤学専攻: 森川想講師と の会議に参加

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

委員長	神戸女学院大学非常勤講師 吉田和志氏
副委員長	福知山公立大学准教授 杉岡秀紀氏
委員	朝来市教育長 千歳誠一郎氏
委員	但馬県民局地域政策室室長 河本要氏
委員	兵庫県教育委員会事務局高校教育課指導主事 神田貴司氏

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 7月8日	第1回会合 ・申請の経緯，事業方針を説明し，今後の事業内容について協議 ・第1回コンソーシアム I K U N O 協議会の会議内容，決定事項，課題等について指導・助言 ・今後の会議の日程について協議し，成果発表会で地域活性化への提言を行うことを決定
令和元年 11月16日	生野高等学校体育館で実施された第4回観光・グローバル教育発表会に参加し，生徒の研究成果のプレゼンテーションを参観 (生野検定，地域活性化等)
令和元年 11月16日	第2回コンソーシアム I K U N O 協議会にオブザーバーとして参加
令和元年 11月16日	第2回会合 ・発表会の内容や実施方法について協議し，発表内容，発表時の生徒の様子について指導・助言 ・5月契約日から11月16日までの本校の取組について協議 ・コンソーシアム構成団体との協働の進め方に対し，指導・助言 ・コンソーシアム I K U N O 協議会の進行について指導・助言
令和2年 2月11日	第1回但馬地区高校生フォーラムに出席
令和2年 2月11日	第3回会合 ・第1回但馬地区高校生フォーラムの実施内容について指導・助言 ・今年度の取組について協議し，来年度の活動方針を決定

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- a コンソーシアム及び運営指導委員会を通じた管理と指導・助言
コンソーシアム及び運営指導委員会に担当指導主事を派遣し，大学・企業・関係機関関係者等の専門家と意見交換を図りながら，事業の成果と評価をもとに指導・助言を行った。
- b 「ひょうごグローバルリーダー育成推進懇話会」の開催
県内地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校，県内 S G H 指定校，

アソシエイト校，ひょうごスーパーハイスクール指定校，包括連携協定を結んでいる3大学及びSGUである関西学院大学の関係者，県内のグローバル企業関係者等から構成される懇話会を設置し，各校の取組について情報交換を行うとともに，事業運営における課題等について，企業や大学関係者からの指導・助言をうけ，事業の推進及び県内高等学校への普及活動を図った。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・事業終了後，本事業の取組を持続可能なものにするために一定の事業経費を計上し，支援する予定。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

- ・締結を行っていない。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目「観光・グローバル学習」における地域での探究学習	→											
学校設定科目「地域学習」における地域での探究学習	→											
総合的な学習の時間「観光・グローバル探究Ⅰ」における地域での探究学習	→											
総合的な学習の時間「地域探究Ⅰ」における地域での探究学習	→											
学校設定科目「郷土理解」における地域での探究学習	→											
朝来市・神河町等との協働	→											
各種コンテスト・サミット等への参加				○			○		○	○	○	

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- a 地域人材の活用により，地域の歴史・文化・風習等を知り，鉾山町としての意識（「IKUNOプライド」）を持つ生徒の育成。

・10月28日(月)，兵庫県教育委員で作家の玉岡かおる氏が来校。著書『銀のみち 一

条』を教材に、生野の歴史や素晴らしい地域資源について特別授業をしていただき、「IKUNOプライド」の醸成に繋がった。

- ・2学年の学校設定科目「郷土理解」において、井筒屋運営委員長：中井武四氏による生野の歴史・文化についての特別授業を井筒屋にて実施し、生野の「過去を知る」学習を行い、鉾山町としての意識の理解に繋がった。

b 地域の観光資源の活用の方策を地域住民と協働して考え、観光資源を活かした魅力あるまちづくりを企画・立案し、朝来市に提案。

- ・11月16日(土)、第4回観光・グローバル教育発表会のポスターセッションやプレゼンテーションにおいて、高校生が考える地域活性化の提案を行った。具体的には、播但線の第3セクターによる活性化等である。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間、学校設定教科・科目等)

以下のa～dの探究活動や授業の方法、カリキュラム、地域との協働体制、コンソーシアムの構築体制等を、「IKUNOモデル」として体系化し、普及・促進を図る。

【1学年】

a 「観光・グローバル学習」「地域学習」

<ねらい>

『日本遺産「播但貫く、銀の馬車道鉾石の道」を学ぶ』(文化庁)をとおして、地域の過去と現在を知ることによりIKUNOプライドの基礎を醸成する。歴史や文化の理解を軸に置いたIKUNO検定を作成する過程で、フィールドワーク、情報収集、インタビュー、発表資料作成、発表方法といった基本的な研究手法を獲得し、協働的に探究する姿勢を身につける。また、「お金についての知識」、「テクノロジー×地域課題」をテーマとした外部講師の講義を受けることにより、「観光・グローバル探究Ⅰ」、「観光・グローバル探究Ⅱ」、「地域探究Ⅰ」、「地域探究Ⅱ」へ向けての基礎作りを行う。

<目標>

- 1 銀の馬車道沿いにある地域資源を再発見し、発信する。
- 2 「IKUNOプライド」を醸成し、地域が抱えている課題に気づく。
- 3 地域活性化に必要な主体的に地域課題に向かい解決する力、お金の知識、テクノロジーの知識を身につける。

1学年の学校設定科目「観光・グローバル学習」「地域学習」では、朝来市職員を特別講師として招き、生徒のフィールドワーク等をとおして、地域の魅力を学び、その成果を「IKUNO検定」としてまとめ、「過去を知る」「現在を知る」をテーマとして発表した。あわせて、課題研究の手法、プレゼンテーションの基礎知識を学んだ。

また、「未来を知る」をテーマに、東京大学大学院工学研究科特任准教授によるテクノロジー(AI, IoT)の特別授業を受け、最先端のテクノロジーに関する基礎知識を学んだ。

b 「海外地域研究」

<ねらい>

学校が置かれている朝来市と海外がどのようなにつながってきたかについて、歴史を通して学ぶ。また、特に深くつながっているベトナムについて研究を深めていくことで、来年度のベトナム修学旅行で行うプログラムの一つである、現地での学校交流における共同研究の

ための準備を行う。

<目標>

- 1 朝来市と歴史的につながりのある外国についてその背景を理解する。
- 2 地元のことを調べ、ベトナムと比較研究を行うことができる。
- 3 調べたことを海外向けに発信することができる。

1学年の総合的な探究の時間「海外地域研究」では、ベトナムについての調べ学習を行うとともに、プレゼンテーションの基礎知識を合わせて学んでいる。3学期には東南アジアの社会と文化が専門である福知山公立大学教授を招き、ベトナムについての基礎知識を学んだ。ベトナムと日本との比較研究もを行い、2学年のベトナム修学旅行での訪問先の学生に比較研究の成果を発表する予定である。

【2学年】

a 「異文化理解」

<目標>

異文化に関心を持ち、積極的に他国の文化について調べることで、異文化に対する理解を深める。また、英語による言語活動を積極的に行うことで、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を高める。

学習指導要領に定められている科目の目標に基づき、朝来市が深いつながりを持つフランスにあるクロミエ総合高校とテレビ会議をとおして、訪問予定の朝来市の竹田城跡や生野銀山を紹介した。11月7日(木)には、クロミエ総合高校の生徒17名が竹田城跡・生野銀山を訪問した後、生野高校を訪れ、日本文化を紹介するなどの活発な交流を行った。また、修学旅行で訪れたベトナムについて、風土や文化についてまとめ、プレゼンテーションを行った。さらに、オーストラリア出身のALTから、オーストラリアのアボリジニーの歴史や言語・文化など様々なジャンルについて紹介してもらい、英語で活発に意見交換を行った。

b 「郷土理解」

<目標>

生野銀山や竹田城跡等、朝来市の観光地でのフィールドワーク、生野町内のまち歩きなど、生野町およびその周辺について理解を深める。

生野銀山等の朝来市の観光地でのフィールドワークや生野まちなみガイドの指導によるまち歩きをとおして、郷土に対する理解を深めた。また、鉾山町生野のまちづくりに関わっている地域住民等から直接指導を受けることで、地域に対する関心を高めるとともに「IKUNOプライド」の醸成を行った。さらに、3学期の授業においては、日本遺産「銀の馬車道・鉾石の道」の隠れた観光スポットを見つけ、観光プランを作成中である。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

7月26日(金)、アメリカ・イェール大学の学生がNPO法人「日本ハンザギ研究所」を訪問。本校生徒たちにオオサンショウウオやアメリカで研究している爬虫類について

の英語によるプレゼンテーションを実施し、生徒は日本のオオサンショウウオの生態について生物の授業で調べたことを英語で発表し、交流を図った。

今後、生物基礎の特別非常勤講師授業において、特別天然記念物「オオサンショウウオ」の学習を1学年全員に行い、そこで学ぶことをコミュニケーション英語Ⅰの授業で簡単な英語にまとめ、スカイプをとおして、海外の高校・大学との交流において発表する予定である。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

朝来市総合政策課との協議により、生野の魅力を生徒が知ると同時に、地域住民に広報するために、「IKUNO検定」を作成し、成果発表会で披露した。

7月13日(土)『地域づくりサミット in 但馬』(村岡高校主催)、11月16日(土)『第4回観光・グローバル教育発表会』、12月14日(土)『全国高校生マイプロジェクトアワード2019北近畿選考会』、12月14日(土)『日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」高校生地域魅力発見ワークショップ&フォーラム』に生徒が参加し、日頃行っている探究活動の成果を発表した。また、2月11日(火)には、『第1回但馬地区高校生フォーラム』を開催し、但馬地区の高校生の探究活動を広く紹介するとともに、高校生目線での但馬の魅力を発信する予定である。

また、2学年の探究学習でオオサンショウウオについて学んだ3学年の生徒が、広くオオサンショウウオの存在について知ってもらおうと、NPO法人「日本ハンザキ研究所」との協働により、子ども向けの絵本を制作し、地元印刷会社の協力のもと、自費出版を行った。その絵本を地元こども園で自ら読み聞かせを行い、オオサンショウウオの魅力を園児に伝えた。また、その話を聞いた朝来市が次年度絵本を増刷し、市内のこども園に無料配布する予定である。

⑤成果の普及方法・実績について

11月16日(土)、第4回観光・グローバル教育発表会において、ポスターセッションおよびプレゼンテーションによる発表により、活動の成果を地域住民等に発信した。質疑応答では、地元住民からも活発な質問・意見が寄せられた。

毎月、学校通信を発行し、活動内容を紹介している。地元中学校3年生全員、生野町内各区に配布し、広報している。また、本校ホームページでも行事ごとに活動内容を紹介している。

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

授業担当者でカリキュラム開発等専門家として担当者会議を設置した。そこで、指定1年目は該当科目の年間計画、指導案、使用教材、教員用ガイドブック、生徒用ガイドブックの作成と来年度向けの修正を行った。授業担当者の意見をもとにカリキュラム開発等専門家が該当科目に必要なものを検討し、開発を行う体制を整えた。

来年度は、これに加えて、評価方法、外部者との連携体制、外部者用ガイドブックも合わせて作成、研究していく予定である。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

I K U N Oモデル推進委員会で具体的な指針を決定し，それに基づいて授業担当者が授業を行う。授業担当者の授業を行う上での問題点を担当者会議で共有し，カリキュラム開発等専門家はそれを基に年間計画や指導案等の助言を行う。また，年2回行われる本事業の成果発表会を全職員で運営した。

学校全体共有方法として，I K U N Oモデル推進委員と授業担当者ではない職員が，先進校視察を行い，その後，全職員に対して還元研修を行うことで，指定事業に対する学校全体の共通理解を図った。

I K U N Oモデル推進委員会を中心に実施計画を作成し，校務運営委員会，職員会議で全職員に共通理解を図り，指定事業を推進している。

③学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

カリキュラム開発等専門家が担当者会議で授業担当者からの意見を聞くことや実際に授業に同行し，成果の検証・評価を通じ，計画・方法の改善策を助言した。それをI K U N Oモデル推進委員会において，学校長を中心に確認し，不十分に思われる部分については，委員会としてどのように改善するかを協議し，改善する仕組みで事業を進めている。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

第1回コンソーシアムI K U N O協議会で本事業の説明を行い，生徒が地域のことを知るきっかけづくりを目的としたフィールドワークへの協力をコンソーシアム構成団体へ要請した。例えば，朝来市役所を中心に生徒たちが，地域の現状を知るための講義や教材提供をしていただいた。その中で，生徒たちがより深く知りたいと感じたことに対して再度，指導・助言を行っていただいた。その後，I K U N O検定の作成をコンソーシアムメンバーと協働して行った。例えば，シルバー生野との協働で，妹尾社長から生野銀山の歴史等，直接お話を聞き，坑道も案内していただいた。その内容をもとに，I K U N O検定の問題を作成し，11月16日実施の第4回観光・グローバル教育発表会で地域住民や当日参加されたコンソーシアム構成員にも披露した。その内容について，今後の課題点を含め，コンソーシアム構成員から多くの指導・助言をいただいた。

第2回コンソーシアムI K U N O協議会は，第4回観光・グローバル教育発表会と同日に開催し，コンソーシアム構成員も多数参加。協議会ではこれまでの各団体との取組状況を共有し，学校との協働作業がまだ十分に進んでいない他のコンソーシアム構成団体とは効果的な連携方法について議論した。

第3回コンソーシアムI K U N O協議会は，2月11日に第1回但馬地区高校生フォーラムと同日に実施。当日はプレゼンテーションやポスターセッションで各学校の特色ある取組や探究活動の成果等を参観後，指導・助言をいただいた。あわせて11月以降の各コンソーシアム構成団体との協働の状況について検証した。

8 目標の進捗状況，成果，評価

運営指導委員会やコンソーシアムI K U N O協議会等の外部組織と連携しながら，内部組織であるI K U N Oモデル推進委員会を中心に，絶えず検証を行い，P D C Aサイクルに基づき

改善を進めた。具体的には以下のとおりである。

(1) 本構想において実現する成果目標（アウトカム）

①卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着

a 地域をよくするために、地域における問題に関わりたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒の地域に対する主体性が養われたかどうかを測る）

1年目目標値－60% 1年目実績－62.8%（2019年度高校魅力化評価システムより）

b 多様な考え方の人と関わって多くのことを学びたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒のコミュニケーション能力、探究心が育成されたかを測る）

1年目目標値－60% 1年目実績－69.4%（2019年度高校魅力化評価システムより）

c 勉強したことを実際応用してみたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：学校での学びが生徒の実生活や地域と密接な関係にあるかを測る）

1年目目標値－60% 1年目実績 59.7%（2019年度高校魅力化評価システムより）

②高校卒業後の地元への定着状況

a 将来もずっと今の地域に住んでいたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒の地元への定着力を測る）

1年目目標値－40% 1年目実績－8.2%

b 高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒のふるさとへの愛着を測る）

1年目目標値－60% 1年目実績－62.8%（2019年度高校魅力化評価システムより）

c 高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合（目標設定の考え方：いつくらいに帰郷したいかを同時に聞き、生徒の地元就職への思いについて分析する）

1年目目標値－35% 1年目実績－43.9%

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

①地域課題研究又は発展的な実践の実施状況

a 探究活動に充実感をもつ生徒の割合（目標設定の考え方：探究活動への生徒の取組を測る）

1年目目標値－70% 1年目実績－60.2%

b 地域の抱える課題への解決策や観光に関しての自治体への提案状況（目標設定の考え方：探究活動の成果を見る）

1年目目標値－1回 1年目実績－1回

11月16日の第4回観光・グローバル教育発表会で実施

②地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして

a 「但馬地区高校生フォーラム」の開催（目標設定の考え方：成果発表の実施について測る）

1年目目標値－1回 1年目実績－2月11日実施

③その他本構想における取組の具体的指標

地域活性化に関する公益性の高い国内の大会における参加者数（目標設定の考え方：生徒の探究活動の客観的な評価を測る）

1年目目標値－8人 1年目実績－9人

12月14日：全国高校生マイプロジェクトアワード2019 北近畿選考会に3人参加

12月14日：日本遺産「播但貫く、銀の馬車道・鉱石の道」高校生による地域の魅

カづくりフォーラムに3人参加

12月26・27日：2019 高校生地域創造サミット（三重県教育委員会主催）に3人参加

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

①地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして

学校への地域住民の派遣回数（年間）（目標設定の考え方：地域との協働の取組の進捗状況を測る）

1年目目標値－10回 1年目実績－13回（予定も含む）

オープン・ハイスクール（3回），オープンスクール（2回）

第4回観光・グローバル教育発表会（1回），但馬地区高校生フォーラム（1回）

コンソーシアムIKUNO協議会（3回），IKUNOモデル運営指導委員会（3回）

②その他本構想における取組の具体的指標を基に

「IKUNOモデル推進委員会」の実施回数（年間）（目標設定の考え方：地域・企業との連携の進捗状況を測る）

1年目目標値－9回 1年目実績－23回

指定1年目で，協議する内容が多く，目標値よりも多くなっている

(4) 評価と課題

地域をより良くするために地域の問題に関わりたい，将来自分の住んでいる地域に役立ちたいという地域貢献意識に関する生徒の割合は，1年目の目標値に近い数値である。「IKUNOプライド」の醸成については，1年目の目標を達成したと考えられる。

一方で，1年目の目標値よりは，地域に残りたい生徒の割合は30ポイント近く，探究活動に充実感を持つ生徒の割合は10ポイント近く低い。2年目への課題としては，地元への定着力や探究活動に対する生徒の満足度向上のための取組があげられる。この点を踏まえて，外部との連携をとりながらカリキュラム開発を行っていく。

9 次年度以降の課題及び改善点

課題

① 初年度は1学年のみの取組が多かったため，学校全体への広がりが見られず，職員の研究開発への取組み姿勢に温度差があった。

② カリキュラム開発において年間授業計画や具体的な授業計画を試行錯誤しながら行っていたため，効果的な取組が行えない場面があった。

改善点

① 先進校視察をIKUNOモデル推進委員と委員でない職員のペアで行い，委員以外の視察者が全職員に対して視察内容を報告し，本事業の取組と関連づける場を設定するとともに，職員が一丸となって取り組めるように共通理解を図った。

② 今年度の検証を行い，カリキュラム等開発専門家等から助言を受けながら，年間授業計画や各授業の実施計画を見直す。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	078-341-7711
氏名	神田 貴司	FAX	078-362-4288
職名	指導主事	e-mail	Takashi_Kanda@pref.hyogo.lg.jp